

地域医療連携だより

えん

発行日：令和7年6月 発行所：富山赤十字病院 富山市牛島本町2丁目1番58 TEL. 433-2492 発行責任者：時光 善温

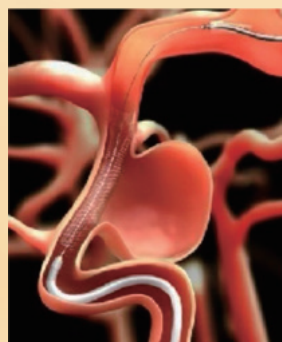
先進医療のフローダイバーターステントによる 未破裂脳動脈瘤治療

脳血管内治療科部長 津村 貢太郎

クモ膜下出血は致死率約50%の疾患ですが、その原因の大半は脳動脈瘤の破裂です。この脳動脈瘤が脳ドックなどで未破裂の段階で発見されればその破裂率、年齢などを考慮し治療を検討する事になります。脳動脈瘤の部位、大きさ、形状、患者さんの状態を考慮し、開頭クリッピング手術か脳血管内手術に振り分けられます。現在当院ではより侵襲の少ない脳血管内手術を第一選択としております。しかし脳表に近い中大脳動脈瘤や極めて小さな前交通動脈瘤などは開頭クリッピングを優先することもあります。



未破裂脳動脈瘤の脳血管内手術は1997年に日本で脳動脈瘤のコイル塞栓術がはじまりました。当初は破裂症例に行っておりましたが、2000年頃から未破裂症例にも破裂予防のため行うようになってきました。コイル塞栓術の成績は動脈瘤の形状、特に頸部の広さに左右されることが多くwide neckの動脈瘤ではAssist balloonの併用やStentを留置しcoilの親動脈への逸脱を回避する必要がありました。手技が複雑になると合併症のリスクも高くなります。どんな手術でもSimple is Bestです。



2015年にflow diverter stent (FDS) が日本で保険適応となり、これは従来のstentは親動脈へのcoilの逸脱を防ぐのが目的でしたが、FDSは編み目のより細かい金属製のstentで瘤内への血流を減少させることにより血栓化を促進させ治療させる治療デバイスです。当初は治療困難な大型動脈瘤に限られた適応でしたが、近年エビデンスの蓄積により5mm以上の動脈瘤には適応となり適応範囲が拡大されました。FDSの利点は、手技がsimpleでこれを親動脈に留置するだけで開頭手術をせずとも脳動脈瘤を高い確率で完治できるところ、再発率が低い、術中破裂の危険性が低い、低侵襲であることです。大きさや場所にもよりますが、半年後で6割〜7割、1年後なら8割以上、2年後になると9割超の患者さんで、脳動脈瘤の血流が完全に遮断されます。デメリットは再治療が難しい、長期の抗血小板剤の服用が必要になることです。

FDS治療を実施するためには日本脳神経血管内治療学会が認定する実施資格が必要です。実施医は富山県内に4人おりますが、当院にはそのうち2人が常駐しており、常に治療ができる体制を整えております。

次世代スタイルの人間ドック 「ウェルビーイングドック」のご紹介

健診部長兼総合内科部(母性内科)医師 仙田 聡子

日本は平均寿命(男性81.41歳、女性87.45歳)・健康寿命(男性72.68歳、女性75.38歳)とも延伸し(2019年厚生労働省)、世界一の超高齢社会を迎えています。当健診センターが施設認定を受けている日本人間ドック・予防医療学会は、2021年に高齢者のための健診・予防医療のあり方検討委員会を設置し、超高齢社会に即した健診について議論しています。高齢者特有の健康課題に関する健診が必要であり、2023年度に「ウェルビーイング健診(健康寿命延伸健診)」と名称が決定し、具体的な内容について議論されています。

現在、平均寿命と健康寿命の差である要支援・要介護の時期は男性約9年、女性約12年で、その原因の約半分が運動器障害(26%)と認知症(17%)です。超高齢社会をよりよく健康に過ごす(ウェルビーイング)ために、健康寿命をのばすための健康管理・予防が重要です。そこで、従来の生活習慣病・がんなどの早期発見・治療に加えて、この加齢に伴う健康問題(運動器障害、認知症)の予防につながる人間ドックとして、2日人間ドックをバージョンアップし、令和7年度から「ウェルビーイングドック」を開始いたしました。運動器健診として、ロコモ健診・サルコペニアチェック・体組成検査InBody・ビタミンD測定を、認知機能検査として、健常域～軽度認知機能障害MCIの段階における記憶力検査「あたまの健康チェック」を標準検査として追加いたしました。将来の介護リスクに対する現在の状態を客観的に確認して、医師・保健師看護師による保健指導を行い、食事・運動・睡眠・喫煙・飲酒・社会活動などの生活習慣の調整による予防対策につなげます。

高齢期の方は加齢により迫りくる介護リスクを回避して現在の健康状態を維持さらにはよりよくできるように、壮年期の方は早期からの予防対策で健康貯金をして健やかに高齢期を過ごせるように、「ウェルビーイングドック」を通じて健康寿命延伸をサポートできる健診センターとしてスタッフ一同、努力していきます。今後ともよろしくお願いいたします。





臨床工学技術課の紹介

臨床工学技術課 臨床工学技士 萩 美奈

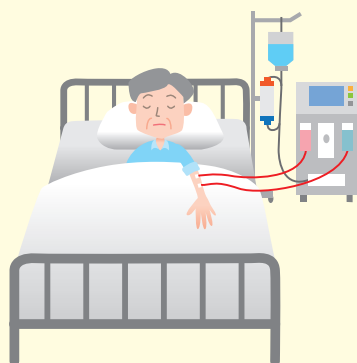
みなさん臨床工学技士という職業をご存じでしょうか。聞きなじみのない職業かもしれませんが、病院の中には医師や看護師のほかに、レントゲン・CT・MRI装置などを扱う診療放射線技師、血液・尿などの生化学検査や心電図・脳波などの生理検査を行う臨床検査技師、リハビリテーションを行う理学療法士や作業療法士など多くのメディカルスタッフが働いています。私たち臨床工学技士はそのメディカルスタッフの一職種であり、医師の指示の下、人工呼吸器や人工透析装置、人工心肺装置などの生命維持管理装置の操作及び保守管理を行う専門職種です。臨床工学技士の制度は1987年5月に制定され、今年で38年目になります。

当院では臨床工学技士8名で構成されており、医療機器管理室をはじめ、血液浄化センター、心臓カテーテル室、手術室、内視鏡室など各部門において医師や看護師などと協働し安全に医療機器が使用できるよう業務を行っています。

今回はその中でも手術室での業務について紹介します。

臨床工学技士は1～2名が兼務の形で手術室業務に従事しています。毎日の麻酔器や手術台の始業点検をはじめ、各診療科で使用する腹腔鏡・胸腔鏡などの内視鏡手術機器の保守点検を行っています。さらに、昨年に導入しました低侵襲技術を用いて複雑な手術が可能な手術支援ロボット（ダヴィンチ）や、事前に撮影したCTやMRI画像と実際の手術部位をリンクさせ手術器具の位置情報を把握し安全な手術を行うためのナビゲーションシステムのセッティング、そして人工心肺装置操作や神経モニタリングの立ち会いなどを行っています。また、術中使用機器に何らかの不具合があった際の迅速なトラブル対応ができるような体制をとっています。

最後になりますが、これからも患者様に安心して治療や手術、検査を行っていただけるように安全な医療機器の使用・管理を通じて活動してまいります。今後ともよろしくお願い致します。今回の紹介で少しでも多くの方に臨床工学技士という職業について知っていただけたら幸いです。



第90回地域医療連携の会

令和7年5月29日(木)午後7時より、富山赤十字病院研修棟3階講堂において「第90回地域医療連携の会」が開催されました。開業医の先生20名、当院医師、看護師、コメディカルを含め総勢89名の参加がありました。第2外科部副部長 倉田 徹医師より「当院でのロボット支援下手術 大腸癌・胃癌での導入」、第2整形外科部長 橋本 浩医師より「手術支援ロボットMakoによる人工関節置換術について」の演題で発表があり、活発な質疑応答や意見交換がありました。

また、地域連携の先生方へ今年度の新任医師の紹介をさせていただきました。



当院でのロボット支援下手術 大腸癌・胃癌での導入

第2外科部副部長 倉田 徹

日頃より多くの患者様をご紹介いただき、誠にありがとうございます。当院にてロボット支援下手術を大腸癌、胃癌に導入しましたので、ご報告させていただきます。外科領域においては、患者への手術侵襲が少なく、繊細な操作を行うことができる胸腔鏡・腹腔鏡手術が広く行われています。ロボット支援下手術は、医師が行う腹腔鏡・胸腔鏡手術をロボットを活用してより精密に行う、いわば腹腔鏡手術の進化版といえる手術で、日本ではさまざまな疾患に対して保険適応が広がり、直近のさまざまな治療ガイドラインでも推奨度が上がっている現状です。当院では、昨年9月に手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入し準備を進め、11月以降大腸癌、胃癌に導入し、外科治療を行なっています。これまで、大腸癌では22例(直腸癌9例、結腸癌13例)、胃癌では6例にロボット支援下手術を行いました。高齢やリスクの高い症例も多かったですが、いずれの症例も出血は非常に少なく、術中の輸血や術後に集中治療や再手術を要する合併症は認めず、良好な経過が得られています。術者にとって、リンパ節郭清や深部での



剥離など、特に繊細な手技を必要とする場面において、腹腔鏡手術と比べ非常に操作しやすい印象があります。外科医・スタッフとも手技・進行の理解・習熟を深め、安全に進められるよう日々協力・連携しています。また、手術症例の多くは連携医の先生方からご紹介いただいた症例でした。今後も“求められ、応えられる外科”を目指し、より多くの患者様に安全で精度の高いロボット支援下手術を提供したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ロボット(Mako)を使用した人工関節置換術について

第2整形外科部長 橋本 浩

2024年3月から当院でも人工関節置換術で使用できる手術支援ロボット(メイコー)を導入いたしました。

人工関節置換術(股関節、膝関節)の簡単な紹介とロボットを使用する方法やメリットについて動画で実際の画像をお見せしながらお話をしました。

人工関節置換術は、主に変形性関節症などで軟骨がすり減って変形した膝や股関節を人工関節に取り換える手術です。

手術の工程のうちで、ロボットを使う部分は骨切りとインプラントの設置です。

ロボットは手術している骨とロボットのアームの位置関係を空間的に把握して、術前の計画通りに骨が削れるようにロボットアームを制御します。(予定外の範囲や方向で削ろうとすると止まってくれます)

さらに、ロボットを使用した人工関節置換術では、メリットが3つほどあります。

正確性、安全性、低侵襲です。正確な骨切りとインプラント設置はインプラントを長持ちさせ、脱臼の確率を減らします。また、予定の範囲外を削ろうとするとすぐに止まって安全を確保します。インプラントの固定性が良好なため追加のスクリューが減り出血のリスクは減少します。さらに、骨切りガイドを設置する必要がなく剥離が最小限であり出血の減少や術後の痛みが減ると言われています。

当院でもこのように有益なロボットを使った手術が可能となりましたので、股関節や膝関節痛でお困りの患者様がおられましたら、ご紹介よろしくお願いいたします。



新たに地域医療連携の会に加入いただいた医院や先生の紹介

● とやま総合歯科・矯正歯科クリニック

赤川 玄次先生

富山市荒川5-1-1 TEL 076-425-0418

● たての心療クリニック

院長 立野 貴大先生

富山県富山市上飯野15番地3 TEL 076-471-6515

● 自院PR



ます。睡眠外来や産業医サービスも提供し、落ち着いた空間で相談いただけます。

当院は富山市上飯野に2025年4月に開院した心療内科・精神科クリニックです。経験豊富な専門医と公認心理師が一丸となり、うつ、不安、不眠など多様なこころの不調に対し、丁寧な診察と科学的根拠に基づく治療・カウンセリングを提供しています。ネット予約と駐車場も多数あり、初めての方も気軽に受診できる“こころのかかりつけ医”を目指します。



● 富山赤十字病院に望むことは？

不眠、不安、うつ、動悸、めまい、物忘れなど悩ましい症状の患者様は多いと思われます。こころの相談が必要な患者様がおられましたら、ぜひ「たての心療クリニック」をお気軽にご紹介いただけますと嬉しいです。

7月、8月の外来診療に関する医師不在日案内

7月

科名	医師名	不在日
眼科	辻屋 壮介	22日(火)、23日(水)、24日(木)、25日(金)
小児科	津幡 真一	24日(木)
	眞島星利奈	15日(火)PM
脳神経外科	桑山 直也	4日(金)、11日(金)
	古賀悠一郎	30日(水)、31日(木)
外科	竹原 朗	1日(火)
	北野 悠斗	11日(金)
耳鼻いんこう科	赤荻 勝一	30日(水)
内科	平岩 善雄	10日(木)
	黒川 敏郎	28日(月)、29日(火)、31日(木)
	川根 隆志	16日(水)、18日(金)
	賀来 文治	17日(木)
産婦人科	藤間 博幸	1日(火)



※不在日には、代診を立てております。

8月

科名	医師名	不在日
歯科口腔外科	石戸 克尚	1日(金)、4日(月)
小児科	足立 雄一	8日(金)PM
	津幡 真一	28日(木)
	眞島星利奈	27日(水)PM
呼吸器外科	川向 純	12日(火)、14日(木)
耳鼻いんこう科	館野 宏彦	15日(金)、18日(月)、28日(木)
整形外科	中村 宏	14日(木)、15日(金)
	橋本 浩	21日(木)、22日(金)、25日(月)
内科	平岩 善雄	13日(水)、14日(木)
	望月果奈子	5日(火)、6日(水)
	若林 祐介	8日(金)、12日(火)、13日(水)
	松永 貴弘	4日(月)、5日(火)、7日(木)
	貫井 友貴	22日(金)
高令心療科	殿谷 康博	21日(木)
産婦人科	桑間 直志	1日(金)
	岡田 潤幸	12日(火)、14日(木)、15日(金)
泌尿器科	長坂 康弘	18日(月)、19日(火)
	上田 太郎	25日(月)、26日(火)、27日(水)

患者支援センターからのお知らせ

「第91回地域医療連携の会」

日時：令和7年8月6日(水) 午後7時から

場所：ANAクラウンプラザホテル富山

演題：◇「地域連携におけるハートチームの役割
ー心臓血管外科医からの見方ー」

富山赤十字病院 病院長 竹村 博文

※みなさまの参加をお待ちしております。



新任医師紹介

心臓血管外科部

医師 黒阪 幸輝



どうぞよろしく
お願いします。

編集後記

雨に紫陽花の花が鮮やかに映える季節となりました。我が子が新しい長靴と雨傘を使えることに毎日わくわくしており、梅雨時期の楽しみ方を子どもたちから見習いたいと思う日々です。

4月より育児休暇より復帰し、患者支援センターに配属となりました看護師の目黒です。私自身、一昨年双胎妊娠・出産の際に地域医療連携を通して他院へ紹介受診、入院、手術、退院と一連の流れを経験し地域医療連携の有難さを感じました。また、切れ目のない療養支援が早期から介入することで外来通院中・入院・退院後の生活の不安軽減につながることを実感しました。今まで病棟と外来で勤務してきました。今後は地域包括ケアシステムを学びながら、患者様や御家族様が安心して療養生活を送っていただくことができるよう一人ひとりの思いに寄り添った療養支援を多職種と連携しながら行い、地域医療の貢献に努めていきたいと思っています。不慣れなことも多く、ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、ご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い致します。(患者支援センター看護師 目黒 唯)



紹介依頼など、下記までお問い合わせください。

**富山赤十字病院
患者支援センター**

TEL : 076-433-2492 FAX : 076-433-2493

e-mail : byousinrenkei@toyama-med.jrc.or.jp

夜間・休日のお問い合わせは…TEL : 076-433-2222(代表)

Fax : 076-433-2410(夜間・休日のみ)